

# 学校における働き方改革

- ・ 学校における働き方改革の目的

## 学校における働き方改革の目的

教員のこれまでの働き方を見直し、自らの授業を磨くとともに日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、自らの人間性や創造性を高め、子どもたちに対して効果的な教育活動を行うことができるようになること

「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン（第2期）』」

- 『北海道アクション・プラン』

道教委はこれまで、出退勤管理システムの導入、働き方改革手引「Road」の作成、働き方改革推進校における実践に加え、調査業務の廃止・簡素化、研修の精選、スクール・サポート・スタッフの配置等に取り組んできた。

「学校における働き方改革『北海道アクション・プラン（第2期）』」



# 『北海道アクション・プラン』

## 【アクション・プラン（第2期）の内容】

期間	令和3年度から令和5年度までの3年間
目標	<p>教育職員の在校等時間から所定の勤務時間等を減じた時間を</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 1か月で45時間（1年単位の变形労働時間制を適用する場合は42時間）以内</li> <li>・ 1年間で360時間（1年単位の变形労働時間制を適用する場合は320時間）以内とする。</li> </ul>

個の“気付き”

チームの“対話”

地域との“協働”

## 【重視する視点】

現状分析を踏まえて各教員が自らの働き方を認識し、各自が最適な取組を実践。

真に必要な教育活動を効果的に行うため、学校全体で対話し、業務改善を実践。

働き方改革の趣旨と取組に対する、保護者や地域住民の理解と協力を醸成。

## ・働き方改革の具体的な取組

### ○ 効率に焦点を合わせた業務改善の発想

- ・ 類似した業務を集約し、まとめて行うようにする
- ・ 全員を一堂に集め、同じ時間に一齐に作業をする  
例) 保護者への連絡は、基本的にはメールを活用して一齐通知とする

### ○ 効果に焦点を合わせた業務改善の発想

- ・ 業務の内容に合わせて一番仕事のしやすい時間帯に集中して作業する
- ・ 情報共有のための会議はメール共有にし、意思決定のための会議のみ行う  
例) 自習の時間に地域の学習ボランティアと連携して、その時間にテストの採点を行う

## ・働き方改革の具体的な取組

### ○ 教員が意識してほしい「効率化」の重要性

- ・まずは個々に「変える力」があることを認識する  
(改善を諦めない)
- ・少しの「効率化」の積み重ねが大きな成果になると認識する
- ・自分の業務が少しでも効率的になるよう教員間で互いの考えを交流する

例) 学習プリントを單元ごとにファイリング、データはわかりやすくフォルダに整理し、内容と方式を学年や教科の教員で共有し、質を高めながら使用する。また、次年度の同学年や同教科担当に引き継ぐ。

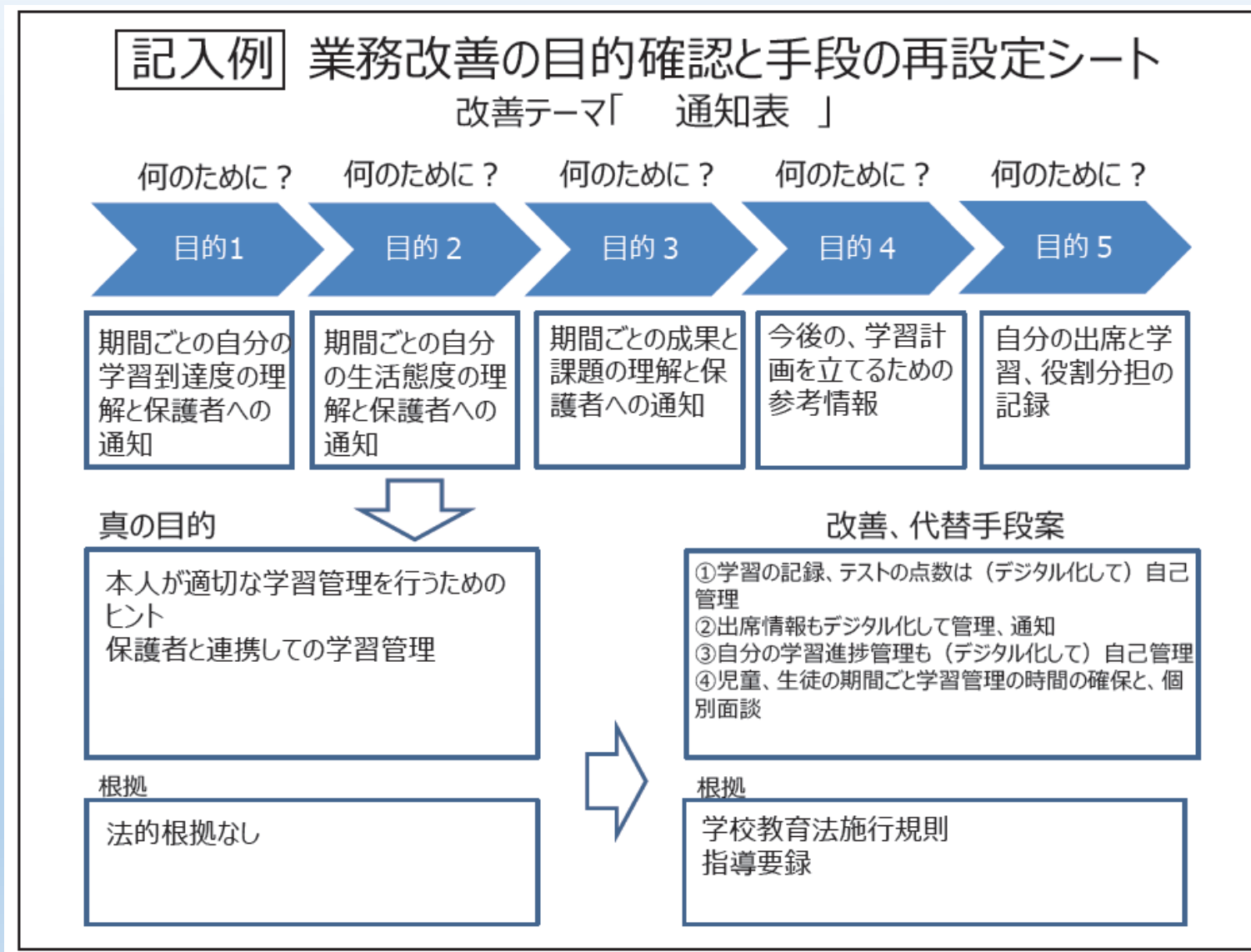
## 働き方改革の具体的な取組

**業務改善の目的確認と手段の再設定シート**  
改善テーマ「」

何のために？    何のために？    何のために？    何のために？    何のために？

目的1	目的2	目的3	目的4	目的5
真の目的	改善、代替手段案			
根拠	根拠			

## 働き方改革の具体的な取組





- 働き方改革の具体的な取組

## 北海道の学校における働き方改革手引"Road"



北海道教育庁 職員局教職員課  
学校における働き方改革 ウェブサイト